

2017年12月31日<降誕後主日礼拝>飯川雅孝牧師

招詞：ヨハネによる黙示録22章12-21節 聖書：ヘブル書13章：1-8

説教 『ゆく年くる年』

1. はじめに：年の暮れに

何十年にもわたって大晦日の午前零時15分前から30分『ゆく年くる年』というNHKの番組があります。紅白歌合戦での喧騒が終わり、静寂と荘厳な雰囲気は一変します。世界や日本の地域の様子、過疎化などを報告しながら、時の流れを伝えています。除夜の鐘の音やそのお寺の様子もあり、日本人の精神性や宗教観を伝えた印象をもちます。本年度の生活を振り返り、来年度からの生き方のために足元を固めたいと思います。

2. 週報には、ある報道機関が伝える日本と世界の2017年の10大ニュースをあげました。今年目を引いたと言うことのみならず、その背景には長い歴史を踏まえたものもあれば、最近急に目立ったものもあります。せっかくの機会ですから、その項目にご一緒に目を通したいと思います。

**国内**①二百振り天皇退位②衆院選自民大勝民進分裂 ③森友・加計・日報、政権揺るがす  
④「ものづくり」信頼揺らぐ（大企業） ⑤アパートに9遺体 ⑥桐生9秒台  
⑦ 共謀罪成立 ⑧九州北部豪雨 ⑨藤井4段29連勝 ⑩電通有罪・働き方改革へ  
○幼児の虐待、路傍生活者、身障者施設危害、高齢化の問題、オレオレ詐欺、  
I P S細胞、憲法9条、貧富の格差（株の暴利、貧困層問題）、汚職・談合、  
大相撲暴力沙汰騒動  
◎支援団体：J O C S（日本海外医療協力教会）、JapanHeart、かにた後援会、  
盲導犬協会、障がい者施設、・・・

それぞれの項目にはそれを動かしている人の思いと歴史的背景や意味があります。

例えば①の天皇退位の問題は、戦後の象徴という存在は、明治以来の天皇制の国内政治における位置づけ。戦前は神として目をむけさせた天皇から象徴としての天皇。それが軍部により戦争遂行に利用されたとの天皇制への批判的見解。それぞれの国民が憲法と合わせてどのように考えているか、という大きな問題を抱えています。②衆院選は小選挙区制と日本の現在における国民の経済生活を抱え、また政治思想の動向を左右するものでしょう。現実としては、選挙に投票に行く多くの人々が、短期的な経済的繁栄に心を向けていることの現れと感じます。③の安倍首相の私的癒着の問題は②の自民党の圧勝にもかかわり今の政権の驕りとその退廃を示しますが、それを是正することが出来ない政治状況とわれわれ国民への警告も訴えております。④は指導的立場にある企業の犯した問題ですから影響が大きい。技術立国を誇る日本の弛みと企業指導者の資質、ひいては国際的地盤沈下への影響も考えなければなりません。中国の大国化、次に来るインドの台頭にむけて日本の姿勢が問われているわけです。他に○印の幼児の虐待、路傍生

活者、身障者施設危害、老齡化の問題、オレオレ詐欺、など憂うべき問題が山積みされています。次に、

**海外**①北朝鮮、核・ミサイル開発加速 ②トランプ政権発足・混乱 ③中国、習近平氏「1強」確立 ④I S、拠点陥落で事実上崩壊 ⑤韓国大統領罷免、文在寅政権発足 ⑥欧州テロ、選挙で右派伸長 ⑦マレーシア空港で金正男氏暗殺 ⑧ミャンマーからロヒンギャ難民 ⑨NYダウ、2万4000ドル突破 ⑩国連、核禁止条約採択

○アフリカ民族問題、シリア難民・欧州受入拒否、英 EU 離脱、アラブ・イスラエル問題

◎支援団体：国境なき医師団、国連難民 UNHCR 、国際飢餓機構・・・

世界の動きは、長い歴史の中で弱肉強食を底に抱えた問題と大国の支配力の問題が表面に出てきているという感じを受けます。先進国は自国の繁栄を維持しようと努め、①の北朝鮮は国際競争から取り残された状況を国民の犠牲の上に世界の平和に挑戦してまでテロ的に自己の存在を強調しようと姿勢と考えざるを得ません。アメリカのみならず、韓国、日本の軍備増強への口実を与えます。②トランプ政権の発足はアメリカ国内にも世界にも混乱を招きました。オバマ前大統領が苦心の末、やっどこぎつけた医療保険制度を破棄し、メキシコとの間に壁を設け、TPPに不参加を決め、京都議定書を破棄し、エルサレムをイスラエルの首都とする混乱を招き、各国との貿易摩擦を引き起こしている。でも、アメリカはトランプを支持する人が40パーセントと変わらない。ここに、アメリカ国内にも病んだ部分があるのが認められます。

### 3. 暗闇における問題解決

以上、世界や日本には、戦争の問題、経済格差の問題（株や資産活用により働かなくても富裕な層と働けない貧困層の構造）、汚職の多発、倫理の退廃の問題が蔓延しています。わたしたちはこの世界の闇の現実から目を背けることはできません。しかし、救いは、世界は神が創造され、わたしたちにその支配と管理を任されたことを信ずる以外にないのであります。数多くの火急の問題に目を向け、主イエスの教えに耳を傾けることであります。その中で、世界の人口から見ればまことに少ない心ある人々が、

◎支援団体：JOCs（, JapanHeart, かにた後援会、盲導犬教会、障がい者施設、・・・

◎支援団体：国境なき医師団、国連難民 UNHCR 、国際飢餓機構・・・を形成し、命がけで働いていることを知らなければなりません。

これらの問題の解決は政治、次に経済の順に解決されなければなりません。しかし、その改革も人間が行う。これらの問題を真摯に受け止める意識と改革の意欲がなければ、状況はより悪くなる。重要なのは改革する人間が何が正しくて何が間違っているかを判断できる力、神の力をいただかなければ正しい解決の方向に向かない。間違えば、ヒトラーのようにかえって悪いことをしてしまう。ですから、政治家を選ぶわたしたちも同じ責任を持たなければならない。

#### 4. 危機における聖書のことば

この一年の最後の日、この世のこうしたこじれた問題を受けとめ、聖書を紐解いて自分の世界感を照らし出してみる。すべてをご存知である主イエスの知恵に耳を澄まして傾け、心を落ち着かせたいと思います。イエスは語られます。

マルコ 13：7－10 「戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞いても、慌ててはいけない。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、飢饉が起こる。これらは産みの苦しみの始まりである。あなたがたは自分のことに気をつけていなさい。あなたがたは地方法院に引き渡され、会堂で打ちたたかれる。また、わたしのために総督や王の前に立たされて、証しをすることになる。しかし、まず、福音があらゆる民に宣べ伝えられねばならない。」

今、日本で自由が与えられている時こそ、主イエスの言葉「福音があらゆる民に宣べ伝えられねばならない。」を心に留め、日々の生活の中で足を踏みしめて行く、そのことが、わたしたちの歩みを神に向けて歩むことになると思います。

#### 5. 危機を踏まえた日常性の中で主の言葉に耳を傾ける

最後に、以上のような危機に置かれている人々が世界には今いることを思い、自分の信仰生活を振り返って見る。本日の聖書箇所はローマの殉教時代、キリスト者であることが迫害されたことであった時代に語られた言葉であります。

13:1 兄弟としていつも愛し合いなさい。

13:2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。

13:3 自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。

13:4 結婚はすべての人に尊ばれるべきであり、夫婦の関係は汚してはなりません。神は、みだらな者や姦淫する者を裁かれるのです。

13:5 金銭に執着しない生活をし、今持っているもので満足しなさい。神御自身、「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない」と言われました。

13:6 だから、わたしたちは、はばからずに次のように言うことができます。「主はわたしの助け手。わたしは恐れない。人はわたしに何ができるだろう。」

13:7 あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい。

13:8 イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることはない方です。

わたしたちはこのイエスの恵み溢れる言葉に、具体的に痛みを覚えるものであります。それはイエスがわたしたちを捕えて下さっている恵みであり、反省の糧として次のステップに進みたいと思います。イエスはそれぞれの行いに応じて報いられるのであります。渴いているわたしたちはイエスの下に行って命の水をいただき、来年を迎えたいと思います。